

令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 上戸地区 協議記録

日 時	2025年11月16日（日） 18:00～20:00
場 所	上戸小学校 体育館

参加者： 35名

【開会のあいさつ】

中川区長会長：

本日は復興に関する意見交換を行うため皆さんにお集まりいただいた。復旧・復興について意見や要望を聞いていただく意見交換会は約1年ぶりだと思う。現在の上戸の復旧・復興に関するご説明をいただき、意見交換を活発に行いたい。

三盆地議会議員

現在の上戸地区の状況について、詳しい説明があると思う。河川、道路、復興公営住宅、そして曳山の倉庫、キリコの倉庫等の要望もあると思う。皆さんの聞きたいことや要望を積極的に言っていただきたい。

市長：

本日は、石川県土木事務所にも出席いただき、本来であれば夏から秋にかけて実施を考えていた土砂災害の対策工事、道路復旧の見通し等についても説明するとともに、地区別プラン策定に関する意見交換会を行いたい。

公費解体は進んでいるが、反面、町並み、町の景色が大きく変わっている。「新たなまちのかたち」をどうしていくか、昨年度から各地区において議論を重ねていただいている。

これだけ大きな被害を受け、尊い命も失われた。災いを転じ、より安全で、快適なまちにしていく。また人口減少を抑えていくためにも、迅速に復旧を進め、安定した住まいを提供する。そして、より魅力ある最先端の復興を成し遂げることが重要であると考えている。

能登半島地震発生から2年になる。上戸地区における、これから復興に向けたプランを固め、具体的に進めていくことが何よりも重要である。復興公営住宅をどこで、どのように整備するか、皆さま方と話し合いたい。

伊藤 地域おこし協力隊：

珠洲市の地域おこし協力隊として活動している伊藤です。私自身は福島県出身で、小学4年生の時に東日本大震災と福島第一原発事故を経験した。その時に全国各地の方々が被災地を応援してくださったことがきっかけで、次は自分が支援する側に立ちたいと思い、珠洲市に移住してきた。ここに長く暮らしてきた住民一人ひとりが考えている地域の課題であったり未来のこと、そういう言葉を一つ一つしっかりと勉強させていただくことが大切だと考えている。今後ともよろしくお願ひする。

【資料説明】

資料1 復旧・復興箇所図

【参加者からの意見】

参加者：

穴釜地区へ神道地区側から行く道路と春日野地区側から行く道路について、道路がまだ直っていないため、雪が降ると危なくて通行できなくなる。

また、防火用水が壊れているため早く直してほしい。加えて、以前走っていた「すずバス」を復活させてほしい。

珠洲市：

穴釜地区に向かう道路について、春日野地区側の道路（市道81-2号線）は令和8年度早々に工事発注する予定であり、南方地区側の道路（市道741号線）についても令和8年度中に発注予定である。現在は応急対応しかできていない。除雪についても昨年同様に対応する。幅員を広げられる箇所については確認し対応していく。

市長：

雪が降る前に安全に通れるよう対応を進められないか。また、現在は防火用水まで手が回っていないが極力早めの対応を行いたい。

珠洲市：

すずバスのフィーダー交通として、震災前まで交通空白地帯に予約制の公共交通機関を週2回運行していた。震災以降、ドライバー不足や車両不足となっており中断している。今年度より国土交通省の補助を活用し、車両を導入する予定である。時期については未定だが、早ければ12月から交通空白地帯の交通を試験的に復活できないか検討を進めている。

参加者：

上ノ間地区であるが今年の8月の大雨で市道から40mほど入ったところで道路が冠水し、一部住宅が床下浸水している所がある。側溝は田んぼの排水と生活排水が入っている。旧国道の復旧をしている最中だと思うが、川から道路に水が流れしており、その先には全く流れていない。すぐ横に住宅があり地盤が下がっているようである。ご自身で直されたが、心配されている。

珠洲市：

上ノ間地区の浸水について、側溝の中を確認した上で対応させていただく。着手は今年度中には入りたいと考えている。

市長：

住宅が建っている場所の地盤が下がっていることも心配である。こちらのほうも確認させていただく。

参加者：

前回の地震のようにインフラが止まると港が重要になる。地震で壊れた防波堤を港とともに整備してほしい。

市長：

飯田港に関しては、防波堤がゆがんでおりそのままでは復旧は難しい。そこで、国が権限代行で公費解体のコンクリートがらで埋め立て、復旧していくことになっている。また、シーサイドの跡地と合わせ、かなり広い土地ができるため、飯田まちづくり協議会と意見交換しながら復興の検討を進める。プレジャーボートの係留なども考えたい。

参加者：

もっと大きな地震があったら北方大池から水が流れ出てきて住宅に被害がでると思う。

珠洲市：

県の方で「防災重点ため池」として復旧している状況である。

中川区長会長：

公民館について、具体的な再建時期や場所について教えてほしい。場所の要望としては小学校の近くでお願いしたい。また、水害防止、広い駐車場の確保、小学校に通り抜ける道路整備の3点を要望する。

市長：

上戸地区の復興まちづくりにおいて、公民館は大きなテーマである。現在の公民館を壊して再建する方向で進めたいが異論はないか。進めていく際には水害対策、駐車場の確保、公民館への入りやすさをクリアして進めていく。

また、旧保育所の場所について、現在応急仮設住宅が建っているが、復興公営住宅の完成までは壊さない想定である。仮設住宅敷地は立地条件が良く、2023年の芸術祭でも拠点となった。珠洲の活性化の場として活用したいと考えている。

参加者：

公民館について、震災以前には子どもたちが「きやーらげ」の練習場所として活用していたが、現在は練習場所がなくなり小学校を使っている。公民館は小学校の隣接地が望ましい。曳山の委員会を行っている。祭りが大好きである。上戸地区の伝統文化をこれからも続けていくためにも公民館で太鼓の練習、「きやーらげ」の練習ができる場所を設けてほしい。曳山の部材の補修もしたい。現在の場所に建て替えることについて自分としては問題ない。

市長：

今年の上戸の祭りでも、曳山を皆さんで引っ張られた姿を拝見している。10地区に大きく分けても、それぞれの地区ごとに特徴のある文化・伝統がある。上戸町の再生、復興に向けても、伝統文化を大切にしていかなければならない。公民館はできるだけ学校の近くが望ましいと思われる。

一方、小学校も児童数が減少しており、先日、上戸小学校の保護者の皆さんとも意見交換もさせていただいた。上戸小学校は現状でも児童数が少ないものの、しばらくはそれほど減少しない。保護者の皆さんは、できれば上戸小学校を残して欲しいが、統合もやむを得ないという感じであった。将来的に上戸小学校の建物をどうするのかも考えていく必要がある。

珠洲市：

珠洲市全体で公共施設の被災状況を確認し、どの施設をどのように活用するか検討を進める予定である。

市長：

基本設計の予算は確保している。近隣用地の確保をできるだけ早く進めたい。

参加者：

公民館の再建に関して、横を流れる川が山王川に合流するところの幅が狭く擁壁も低いため、溢れてくることがある。公民館を再建する際に川幅を広げたり擁壁を高くしたりすることを検討してほしい。

珠洲市：

現地を確認したところ大きな被害は確認できていない。現時点では補修は行うが、かさ上げ等の検討は行っていない。公民館の再建に併せて対策できないか検討する。

市長：

公民館の位置については、異論がなかったため現公民館の場所に再建することで進めたい。駐車場の確保、出入りをスムーズにできるよう検討する。

中川区長会長：

そのように進めてほしい。感謝申し上げる。

市長：

更地が増え、雑草がどんどん伸びており景観にとっても良くない。対策については市議会的一般質問でもよく出てくるが、草が生えないように防草シートを敷く方もおり、それに対し市で補助制度を設けて欲しいといった要望もあるが、防草シートにしても何年も持つものではない。直射日光に当たるとパリパリになってきて、風が吹くと飛んでいくと今度は海洋マイクロプラスチック汚染に繋がりかねない。色についても黒、グレー、緑、青もあり、防草シートの補助金を設

けて推奨するというのもどうかと思う。何か良い方法があるかは難しいが、市で検討しているのは、その区ごとに更地になったところは何件あるか。棟数ではなく、3棟だとしてもそこが全部更地になったとすれば1件として数えていただき、区ごとの件数を出してもらい、年2回草刈りを行っていただくということで、区に対して補助金を渡すという方法である。年2回で1回あたり1件2000円というのは妥当なのかどうか。一つの区で30件の更地があるすると年に2回、1回6万円、2回で12万円になる。それで頑張って草刈りしていただけるのだろうか。

中川区長会長：

上戸地区の10区の中でもそれぞれ状況が異なる。区のなかでも高齢化もあるし、更地の所有者に連絡がつくならよいが、とれない可能性もあるため、区長会長の一存としては答えづらい。更地に関し検討いただいていることについては感謝申し上げる。

市長：

また改めて区長さんと協議いただきご連絡いただければと思う。

【地区からの事前提出要望：旧のと鉄道線路下道路整備について】

市長：

事前にご要望を頂いた項目の一つであるが、レストラン浜中の近くの陸橋の撤去など、のと鉄道株式会社が所有している陸橋やトンネル等については、のと鉄道株式会社で被害状況を調査し、リスクのある箇所については対応を検討している。その他の場所については、のと鉄道株式会社と協議しながら進めていく。

【地区からの事前提出要望：清水川の洪水被害について】

珠洲市：

清水川の復旧について、災害復旧に併せて川の線形の見直しを設計している段階である。川にある土砂は仮置き、流木については今年度から撤去を行う。川の工事は令和11年に完成予定である。

参加者：

清水川の話が出たが図面で工事の範囲に入っていない上流およびその横を通る林道についても復旧してほしい。現在、田んぼの真ん中が川になっている箇所があるなど被害がそのままになっている。さらに上流には穴釜池というため池もある。上戸平野の水源確保の点を踏まえるとその上流の川及びため池の復旧をお願いしたい。復旧のためには林道の整備も必要となる。

市長：

下流の田んぼは土砂を撤去し、復旧に入っている。川について、現状はまだ手を付けていない。

珠洲市：

穴釜池については復旧が難しいため、新たに手前の箇所にため池を設置する方針である。今後実施設計を進めていく。

市長：

新しいため池を設置する際には用地の確保が必要となるため今後も相談しながら進めていく。上流のほうは土砂もそのままになっていると思う。国、県とも協議を進めたい。

珠洲市：

清水川の土砂や流木の撤去については河川の復旧と併せて進める。図面で示した箇所より上流部分は状況確認が進んでいない。

参加者：

状況として難しいのはわかっているが林道も復旧しないと川の復旧は進まないとと思う。せめて田んぼがあるところは復旧を進めてほしい。

珠洲市：

林道について、清水川のとなりは復旧を行う予定である。それより上流については市の管理している林道ではないそのため、災害復旧の補助申請は難しいと思う。

参加者：

以前は集落があり農地もある場所である。市の管理する道路でないのであれば改めて対応いただきたい。その林道沿いに川が流れしており途中から石坂（地名）の方に分かれ、穴釜用水が始まっている。復旧の必要性は高いと思う。

市長：

公共の道路であれば災害復旧の補助を受けることができ財政的な負担は少ない。清水川上流の林道については公共の道路でないため災害復旧のお金がつきにくい。しかし、大きな雨が降るたびに土砂や流木が押し寄せてくれば、河川の災害リスクが高まる。そのような点で要望していきたい。国や県と協議しながら対応していきたいと考えている。

【地区からの事前提出要望：北方地区からの小学校への通学路について】

市長：

以前より挙がっていた要望についていくつか説明する。通学路となっている橋の復旧において、仮橋の整備については学校側と協議しつつ、通学時間帯を避けて進めていく予定である。

珠洲市：

田右エ門橋であり、上戸小学校の近くにある、工事に関して開始時刻を変えられないかということであるが、学校にも確認し、午前8時までには皆さん通学されるため、工事は8時からを予定している。帰りの時間は、小学校と協議を行ったうえで、安全に行っていきたい。

【地区からの事前提出要望：復興公営住宅の整備について】

市長：

復興公営住宅は調整しながら進めたい。意向調査の回答率が84%の段階であるが、状況について説明する。

珠洲市：

集計は全体の64%の状況であるが、上戸町北方地区に関しては13世帯、寺社地区は10世帯、南方地区は1世帯の希望を頂いている。能登建設株式会社の向かいの土地については、地権者に連絡を取ることが難しい状況である。

市長：

和風グリル瀬戸さんの横の土地は、海岸工事の現場事務所が建設されている。今年度いっぱい撤去されると聞いている。この土地を活用するのがよいと思われる。

中川区長会長：

私の感覚として67%の集計段階ではあるが、復興公営住宅を希望している人が少ないと感じる。おそらく公営住宅にするのか、賃貸にするのか迷っている方が多くいると感じている。私は南方地区に住んでいるが、希望が1戸と聞いて驚いた。和風グリル瀬戸さんの隣接地に関しては、個人の意見ではあるがよいと思う。

市長：

年内に場所や建築の形態、戸数を決め、できるだけ早く復興公営住宅を整備したいと考えている。意向調査について、仮設住宅にお住いの方の回答率は95%と高い。みなしひ假設住宅で市外に出られている方は80%である。しかし公費解体後、子どもの家など仮設住宅以外のところに住んでいる方の回答率が低く51%である。電話や訪問をしているがなかなか出られない方もいるため、お声かけ等ご協力いただければと思う。

まちづくり協議会からご提案があった要望等について一通りお答えした。この他にご意見などがあればお願いする。

参加者：

祭りが大好きな人間であり、上戸地区の祭りをこれからも続けていきたいと考えている。今年は曳山、子ども「きやーらげ」を行い、多くの住民の笑顔が見られた。公民館が中心となると思

うため対応していただきたい。

市長：

南方地区の曳山の復旧はかなり難しいと聞いている。補助制度も用意している。ご相談もいただきたい。

参加者：

復興公営住宅の用地について、避難などで住んでいない大きい家が多くあり、その人たちの土地を活用していくのはいかがか。また、上戸の仮設住宅について、土のうを積んで水が住宅のほうへ来ないよう対策をしているが、今後どう対応していくのか。

市長：

復興公営住宅についてであるが、長屋は400～500坪程度必要だと考えている。また、複数の土地を対象とする場合、測量や土地の売買、整地等一つひとつに時間と費用がかかる。できるだけまとまった土地で整備したいと考えている。

仮設住宅の水害について二度も浸水し、ご迷惑をおかけした。川の根本的な解決をする必要がある。現在、国は時間雨量50mmに対応する治水計画を基準としている。基準を満たしているが耐えられていないのが現状である。

珠洲市：

山王川のことだと思うが、復旧優先で考えており、すでに発注済である。

中川区長会長：

近頃の雨の降り方が異常であり、番匠川がこの一年で二度あふれた。公民館も新しくするため、水害対策を強化してほしい。国の基準だけでなく実情に合わせた水害対策を考えてもらいたい。

珠洲市：

全国的に中小河川の内水が排水できなくなっていると感じている。一方、中小河川の支援制度は多くないのが現状であるため、まずは災害復旧を行い、その後河川堤防の整備などの対応を行う。

市長：

長時間、寒い中ありがとうございました。復興公営住宅については、なるべく早く方針を決め、皆様にお示しをし、整備していきたい。旧保育所については地域の活性化に寄与する場所として今後、検討進めていく。公民館について、再建場所が現公民館の場所でよいという意向を受け、早急に計画を進めていく。

これからの中戸地区の活力を高めていくため、皆さんのアイデアが必要だと思う。すでに取り組まれていることに敬意を表するとともに、これからの復興に向けた工夫を皆さんと共に進めていきたい。

以上